

最上地区の県立高校再編整備計画＜第2次計画（骨子案）＞に係る地域説明会記録要旨
【真室川町会場】

- 1 日 時 令和2年9月7日（月）19：00～20：00
- 2 場 所 真室川町中央公民館
- 3 出席者 地域の方々79名
県教委 片桐教育次長、生島高校改革推進室長、外 事務局職員5名
- 4 内 容 室長から説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

（質問・意見）

○ 真室川校の入学者減少について心配していたが、今年18名が入学しひとまず安堵した。これも、昨年度の地域説明会で丁寧に説明していただき、激励もいただき、また、関係者の方々が様々取り組んでくださったお陰であると思う。少子化で再編整備の流れは仕方がなく、この計画案はとても良くまとめられていると思う。

定時制は夜間というイメージであったが、夜間部に比べると昼間部は人気があり、新しい定時制の在り方なのだと感じた。日中に学校生活を送れば夜とは全然違う環境での生活となり、世界が広がり新しい発見もあると思う。次のステップに進むには高校の卒業資格が必要となるため、定時制の果たす役割は大きい。昼間定時制についてももう少し詳しく説明してほしい。

（県教委）

○ 現在、本県において夜間定時制は、新庄北高校、霞城学園高校、米沢工業高校、鶴岡工業高校の4校に設置されている。昼間定時制は霞城学園高校、酒田西高校にあり、更に令和4年度に庄内総合高校に新設され、米沢工業高校も昼間に移行することが決定している。働きながら学ぶ勤労生徒が大きく減り、正社員はほとんどいなくなっている。定時制は一日4時間授業が基本であり、ゆっくり生活できる。大規模校に馴染めない生徒、不登校経験者、一度高校やめた生徒や、学校以外の時間（半日）を、有効活用したいという生徒も志願している。同じような理由から最近では通信制も人気が出ており、全国的にみれば高校生の20人に1人以上が在籍している。資料にもあるように、昼間定時制に移行することで、インターンシップ等の体験的活動が可能になり、社会性の涵養が図られる。夜間定時制は9時頃終業するため、帰宅が心配だという声も聞く。公共交通機関の課題もあり、終業後公共交通機関を利用して帰宅できるのは奥羽本線下りの真室川町だけで、現在の定時制は地区全体の定時制になってない。

以上